フローリング

	製　品　名	遮音等級	床暖対応	備　考
合板フローリング	ユーロプランク145	無	標準仕様	F☆☆☆☆※1
	ワイドカーマス	LL45	標準仕様	F☆☆☆☆※1
	カチンコチン	無	無	F☆☆☆☆※1
	ワイドノッティ	無	無	F☆☆☆☆※1
無垢フローリング	オークリッジ（集成材）	無	無	F☆☆☆☆※2
	ラバーウッド（集成材）	無	無	F☆☆☆☆※2
	カンバ・ツー	無	無	F☆☆☆☆※2
	トラッドパーケット（一枚物）	無	無	規制対象外
	フィンランドパイン（一枚物）	無	無	規制対象外

現在、F☆からF☆☆☆☆までのホルムアルデヒド放散量による表示があり、F☆☆☆☆がもっとも放散量が少ないタイプに属し、無制限にご使用できます。F☆☆☆は使用面積の2倍までの制限を受けます。F☆☆、F☆は実質使用ができません。

※1 JAS認定工場製造による表示
※2 国土交通大臣認定による表示

※規制対象外について

平成15年7月1日より施行された改正建築基準法により、「内装仕上げに使用するホルムアルデヒドを発散する建材」に対して使用規制がされました。**合板フローリング全般**と**集成材フローリング**は規制対象となり、F☆☆☆☆などの表示が義務付けられました。これに対して**無垢フローリング**（一枚物・ユニタイプ）はほとんど発散が認められないことから規制対象からはずされています。表示などはございませんが、F☆☆☆☆の商品として認められており、同様にご使用いただけます。

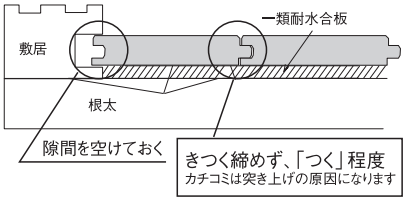
施 工 方 法

■無垢フローリング施工要領

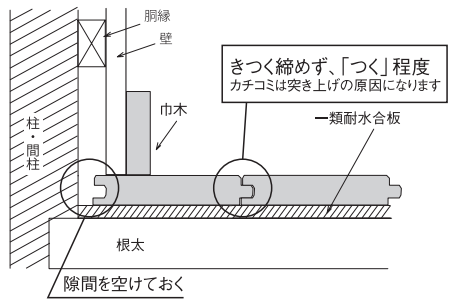
無垢のフローリングは湿気の吸収と発散を繰り返して、伸縮します。施工には下記の点を留意して下さい。

▼木質下地の場合

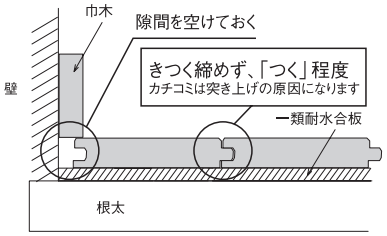
●根太の間隔は300㎜が最適です。床鳴りの原因にならない様に大引にしっかり固定して下さい。根太の上には12㎜厚以上の一類耐水合板を捨て張りします。
●下からの湿気が多い場所では0.1㎜以上のポリエチレン防湿フィルムを併用するなどして、防湿対策を行って下さい。
●施工1週間前には梱包をとき、施工現場に馴染ませるために最低2～3日の仮並べをして下さい。その時、色のバランスを確認しておくとよいでしょう。
●壁際には必ず、10㎜程度の隙間を設けて下さい。木はなじむまで伸縮を繰り返します。気候条件・季節・部屋の湿気にも大きく左右されますので、巾木で隠せる程度の隙間を空けておくと突き上げなどのトラブルを回避することができます。（ビニール巾木は不可）
●フローリングを接着剤（エポキシ系ボンド）と釘を併用して固定していきます。釘の間隔は300㎜程度でフロアー用スクリュータイプの45～50㎜の釘を使用して下さい。釘は下地合板を通して根太にしっかり固定して下さい。白色の木工用ボンドは床鳴りの原因になりますので使わないで下さい。
●板の並びはきつく締めず、「つく」程度とします。部分的に隙間ができても決してたたき込まず、そのまま貼り上げて下さい。
●貼り終える最後の1枚は、1週間ほどなじませた後に貼ることをお勧めします。
●壁面への納めは密着させず、10㎜程度の隙間を設けて巾木で隠して下さい。
●養生シートには表面保護のため、通気性のあるものを使用して下さい。



▼壁が仕上がっていない場合



▼壁が仕上がっている場合



▼コンクリート下地の場合

●モルタルは含水率が10%以下になるよう、十分乾燥させて下さい。不陸（凹凸）が無いように平滑な仕上げにして下さい。
●ボンドとコンクリート釘で12㎜厚以上の一類耐水合板を捨て張りします。あとは木質下地と同様の施工をします。

無垢フローリングは若干の伸縮をしますので、施工では締めすぎやカチコミはしないようにお願いします。また、施工後の養生シートで高湿度の状態が続きますと無垢フローリングは膨張して突き上げの原因になります。現場での通気・換気に十分ご配慮下さい。

施工方法はあくまでも一般的な事例を紹介しております。当社はこれに基づく設計・施工上の不備に対して一切の責任は負いかねますのでご了承下さい。また施工後の伸縮、反り、割れ、変色等の発生、及び諸条件による経年変化は天然木の性質上避けられません。これに関する、苦情、返品、交換等はご容赦いただきます様お願い申し上げます。

WIDE KNOTTY

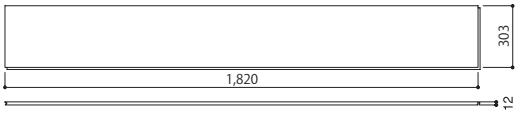
二重床仕上げ用フローリング 施工要領（床暖房なし）

1.適用範囲

本要領書は二重床下地材上に敷設施工を行なう突き板貼り複合フローリング「ワイドノッティ」について適用します。

2.製品構成

・天然木突き板0.4㎜表面仕上げ　・基材5プライ合板JAS- II 普通合板　・F☆☆☆☆仕様



●製品名：ワイドノッティ　●寸法：12㎜厚×303㎜幅×1820㎜長さ（本実加工）
●梱包形態：6枚/ケース・3.31m²入り

3.製品の確認

本品は天然銘木合板ですので、1枚1枚色柄が多少異なります。梱包を解梱後は速やかに施工をして下さい。解梱後長時間放置されますと、寸法安定性が損なわれることがあります。製品の施工現場での管理は、水濡れ・湿気等のない冷暗所にて保管して下さい。

4.製品の割付

部屋寸法を予め測って床材を小片で貼りこむことのないように割付を行なって下さい。床材の貼り方は「ズラシ貼り」を行って下さい。ズラシ幅は300㎜～400㎜すると規則正しく配列され綺麗に仕上がります。巾木は原則として後巾木として下さい。床材の壁際の納めは、壁より2～3㎜程度の隙間を設けて下さい。フローリングの伸縮を吸収することができます。納めの部分にくさびを打ち込むことにより隙間を設けて下さい。先巾木とすることは避けて下さい。先巾木とした場合、フローリングの伸縮により、フローリングの浮きや床鳴りの原因となります。

5.下地面の調整

下地（合板等）の間の段差が無く、床鳴りなどの不具合がないことを確認して下さい。万が一不具合があれば段差払い床鳴り解消の適切な処理を行って下さい。その上で仕上げ材の施工を行って下さい。

6.釘・接着剤について

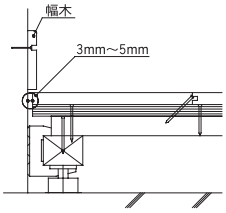
釘はフローリング用スクリュー釘（長さ38㎜以上）を使用し、釘打ちを行って下さい。必要に応じてウレタン系接着剤を用いて接着剤／釘併用の施工として下さい。

施 工 手 順

1.墨だし
貼り始め（第1列）の基準線を決めます。この時、部屋寸法を予め測って床材を小片で貼り込むことの無いように割付を行って下さい。下地合板の継ぎ目とフローリング実部が合わないように注意して下さい。

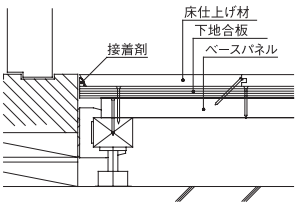
2.貼り始めの床材の切断
ケースから使用する床材を取り出し、部屋全体の色、柄のバランスを考え、仮並べをして配列調整を行って下さい。一列目の基準線に沿って床材を切断していきます。この時床材の雌実（メンザネ）側が壁面にくるようにして下さい。

3.貼り付け
フローリング用スクリュー釘（長さ38㎜以上）をフローリング実部に斜め打ち(約45度程度の角度)で行って下さい。長辺雄実（オンザネ）部の釘止め固定は、フローリング長辺雄実部を約300㎜ピッチで釘止めを行なって下さい。フローリング短辺方向はフローリング用スクリュー釘（長さ38㎜以上）を1本で釘止め固定を行なって下さい。釘打ち固定を行う前に、釘頭頂部の実部よりの突出あるいは雄実部下部の損傷がないか確認下さい。釘頭の突出があれば、ポンチ等で確実に処理して下さい。雄実下部の損傷を生じた場合、適切な処理を行なって下さい。フローリング実部の盛り上がりあるいはフローリングジョイント部の目地の隙間を発生します。ついで、次のフローリングを敷設します。フローリングは、ゴムハンマーかフローリングの雄実部に当て木をしてハンマーでジョイント部に隙間のでないようにフローリングを打ち込んで下さい。



4.貼り仕舞の施工
◎壁との寸法を正確に測り取り、壁際より3㎜～5㎜の隙間を設けて壁際部の納めを行って下さい。壁とフローリングが当たると床鳴りの原因となります。壁とフローリングの間に隙間を設けますので巾木は後付けとして下さい。

◎納め部のフローリングはウレタン系接着剤の塗布及び釘打ち併用の納めとして下さい。和室等の敷居の取り合い部ではウレタン系接着剤のみの納めとなります。その際はフローリングを図のように斜めカットし敷居との取り合い部に接着剤を多めに塗布して納めて下さい。



5.仕上げ養生
施工完了後に、表面のゴミやほこりを取り除いて下さい。特に砂や小石があると傷の原因となります。また、床材に付着した接着剤は綺麗に拭き取って下さい。硬化後では取れなくなります。清掃の後に養生シートを敷き、養生テープで全周囲を止めて下さい。その上から更にダンボールや合板を敷いて充分な養生をして下さい。又、クラフトテープ、布テープでは表面の変色や剥がれの原因となりますので市販の床用養生テープをご使用下さい。

6.施工後の注意
・上履き専用のフローリングです。土足厳禁として下さい。長時間雨露に曝されますと、床材の表面の変色や腐れの原因となりますのでご注意下さい。養生の上といえども脚立や施工道具の取り扱いには充分注意していただき、適切な保護をして下さい。
・車椅子やキャスター付椅子は床表面を傷つけますのでご使用は遠慮願います。
・ピアノ等の支持部の局所荷重に対してはパッドを使用して荷重分散をして下さい。

注意：ナチュラルについてはオイル塗装又はなんらかの表面保護を行ってください。
そのままお使いいただくと汚れが落ちにくくなりますのでご注意ください。

メンテナンスについて

・ワイドノッティ ホワイトオイルのオイル塗装の耐久性は約半年です。約半年毎に専用オイル「サンユーペイント製 春風（ミルク）」でメンテナンスしてください。
・リビング等の歩行頻度の高い部分では撥水性が落ちてきたらメンテナンスをしてください。
・中性洗剤は使用しないでください。水拭きの時は固く絞り拭き取ってください。
・軽い傷や汚れの場合は、研磨して汚れを落とした後、再度オイルを塗布してください。この際、表面を研磨し過ぎないよう注意してください。
※ナチュラルについては、現場にて行った表面保護材によってメンテナンス時期や方法が異なります。メンテナンス方法については、お使いいただいた表面保護材に合わせた方法で行ってください。

フローリングの補修方法について

1）すり傷（塗装膜のみ傷ついている場合）・・・・・・・・ 着色（塗料）により補修を行って下さい。
2）すり傷（ツキ板まで傷ついている場合）・・・・・・・・ コーキング又はフローリング補修キットを使用して補修して下さい。
3）へこみ傷（合板のへこみ）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ フローリング補修キッドを使用して、へこみを埋めて平滑に仕上げて下さい。フローリング補修キットを使用してもへこみ傷が目立つようであれば、フローリングの貼り替えを行って下さい。

※1），2）の場合でも傷が大きく補修しても傷が目立つ場合は、貼り替えを行って下さい。

貼り替え方法

1. 傷ついた板を剥がす場合、ノミを使用し実方向を確認して下さい。まわりのフローリングの実を壊さないように十分に注意しながら行って下さい。その際ノミはフローリングの半分程度の深さまで入れて削り取ってフローリングの実方向を確認して下さい。実方向を確認後、貼り替えるフローリングジョイント部周囲より2㎝程度内側をノコ歯挿入深さを調整（9～10㎜程度）した上、フローリングを切断します。
2. 切り取ったフローリング内側を除去後、残っているフローリング実側をプライヤー等で除去します。その際フロアー釘も併せて除去して下さい。この時、周囲のフローリングを傷つけないように充分注意して作業を行って下さい。又、ノミによっても周囲のフローリングを傷つけないように充分注意して作業を行って下さい。
3. フローリングを剥がし終えたら下地側の状況を確認して下さい。接着剤併用の場合、接着剤が極端に残っているようであれば金ベラやスクレーパー等で接着剤を除去して下さい。又、実部やその周辺に接着剤が付着しているようであれば同様に接着剤を除去して下さい。
4. 貼り替え用のフローリングは、雌実下側を短辺、長辺とも電動ノコあるいはカッターナイフ等で切り取って下さい。
5. 下地側に残っているフローリングの雄実下側に接着剤十分入れて、補修用のフローリングの切り取った雌実を雄実下側に挿入して下さい。
6. 木工用ボンドを納める箇所のまわりのフローリング雄実上側に塗布して下さい。
7. 貼り替え用フローリングを雄実側から入れて納め下さい。
8. 貼り替え用フローリングの浮きが出来ないよう仮釘等によりフローリングの仮固定を行って下さい。
9. 貼り替えた部分に段差が出来ていないかよく確認し、重石を乗せて固定し一日程度養生して下さい。重石・仮釘等は1日養生後、除去して下さい。

直貼り防音床材 施工要領

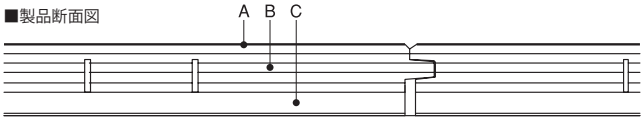
1.適用範囲

本要領書は、コンクリートスラブ等の下地上に施工する仕上げ材である直貼り防音床材に関するものです。

2.製品構成

●寸法：13.6㎜厚×145㎜幅×909㎜長さ
●梱包形態：24枚/ケース・3.16m²入り

■製品断面図



記 号	厚 み	名 称
A	0.3㎜	天然銘木突き板
B	9.0㎜	5プライ合板ＪＡＳⅡ類耐水合板・Ｆ☆☆☆☆仕様
C	4.3㎜	不織布裏打ち スポンジ緩衝材

3.下地床面の調整

下地としては、モルタル金ゴテ押さえ仕上面・セルフレベリング材打設面等です。セルフレベリング材としてはセメント系をお選び下さい。（石膏系はレイタンスが発生しやすいため使用しないで下さい。）乾燥の程度としては、モルタル仕上面やセルフレベリング材打設面は20日以上養生され、含水率が10%以下になっていることをご確認下さい。目安としては、モルタル面に新聞紙を広げ一昼夜放置しモルタル面が黒くならない程度です。不陸の程度は1mにつき3㎜以下にして下さい。さらに小石、モルタルの突起は米粒大のものまで金ベラ等で削り取り平滑にして下さい。ゴミ、ホコリ等は、掃除機等で丁寧に清掃して下さい。

4.接着剤について

接着剤は、踏み鳴りや接着不良を防ぐため『**コニシKU-928R**』を必ずご使用下さい。塗布量は450～550g/m²が目安です。付属の櫛目ゴテで全面塗布して下さい。接着剤は湿気硬化型の１液タイプをオススメします。ダミー合板上ではオープンタイムは短くなります。オープンタイムの目安はダミー合板上では10～20分程度ですので一度に大面積に接着剤を塗り広げないようにして下さい。接着剤は使用後に中蓋をして密閉して保管下さい。湿気で硬化します。

5.直貼り防音床材について

本品は天然銘木化粧合板ですので各板毎に多少色合いが異なります。施工前に必ず仮並べをして配列調整を行って下さい。

6.巾木について

巾木は原則として後巾木として下さい。床材の壁際の納めは、壁より2～3㎜程度の隙間を設けて下さい。フローリングの伸縮を吸収することができます。納めの部分にくさびを打ち込むことにより隙間を設けて下さい。先巾木とすることは避けて下さい。先巾木とした場合、フローリングの伸縮により、フローリングの浮きや床鳴りの原因となります。

施 工 手 順

1．墨だし
貼り始め（第1列）の基準線を決めます。この時、部屋寸法を予め測って床材を小片で貼り込むことの無いように割付を行って下さい。

2．貼り始めの床材の切断
ケースから使用する床材を取り出し、部屋全体の色、柄のバランスを考え、仮並べをして配列調整を行って下さい。一列目の基準線に沿って床材を切断していきます。この時床材の雌実（メンザネ）側が壁面にくるようにして下さい。切断は電動ノコギリを使用しますが、台ノコが便利です。一列目の貼り始めは、施工後の沈み防止のため4のように、沈み防止処理を行って下さい。

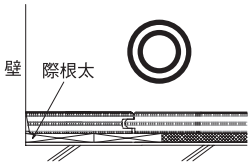
3．接着剤の塗布
必ず指定の接着剤を使用し、接着剤の容器記載の取り扱い説明をよく読んで下さい。低温時の作業は接着性能に悪影響を与えます。5℃以下では接着剤が硬化しないため、予め部屋、下地の温度を上げて作業を行なって下さい。施工面に接着剤を付属の櫛目ゴテで均一に塗布していきます。塗布量の目安は450～550g/m²で、接着剤の塗りムラや塗り残しのないように注意して下さい。ラベルにある貼り付け可能時間を確認し、一度に大面積に塗り広げないように注意して下さい。接着剤が床材の表面に付着した場合は、乾いたウエスですみやかに拭き取って下さい。接着剤が硬化すると取れなくなりますので注意して下さい。

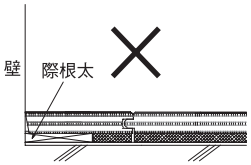
4．部屋周囲の沈み防止処理
部屋の周囲（壁まわり、上がり框、敷居、くつずり等）には、あらかじめ沈みや床鳴りを防止するため、下記のいずれかの処理を行って下さい。

（1）同梱の際根太を入れて施工して下さい。際根太の取り付けは、まず下地に接着剤を塗布し、際根太を置いて、際根太の上側にも接着剤を塗布して下さい。次に床材裏のクッション材を剥がし、際根太と床材をしっかり接着固定して下さい。

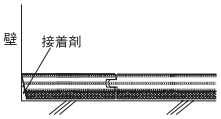
（注意1）床材裏のクッション材がきれいに剥がれてなく多少でもフローリング裏面に残っている場合は際根太と床材の接着不良になりますので注意して下さい。

（注意2）床材の長辺方向の雌実側に際根太を入れる場合、下図の①②のように際根太を入れて下さい。商品番号によってサネの形状が異なるため、際根太の入れ方が変わります。





（2）右図のように床材を、斜めカットし、部屋周囲部と斜めカットした床材の合板部分の間に充分接着剤を入れて施工して下さい。接着剤が硬化することにより、沈み防止ができます。

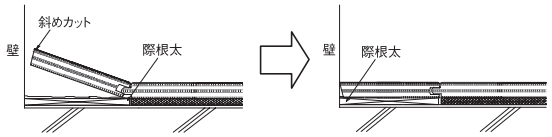


5．貼り付け

〈スキッパー工法〉
廊下等で特に長手方向に5枚以上連続して施工する場合は、壁との収まりに3㎜以上の隙間を開けて施工して下さい。3㎜が難しい場合、長手方向のジョイント部に0.3㎜の隙間を設けて施工して下さい。

- **床材の目地の突き付けの際は、床材間に接着剤が入り込まないように、注意して下さい。遮音性能の低下や歩行感のバラツキの原因になります。**
- 2列目以降の床材の貼り方は「ズラシ貼り」をして下さい。ズラシ幅は300～450㎜にすると規則正しく配列され綺麗に仕上がります。
- 乱尺貼りされる場合は隣の列のジョイント部に近くならないように、施工して下さい。
- 接着剤が製品の表面に付着した場合は速やかにウエス等でふき取って下さい。

6．貼りじまいの施工
- 壁や取り合いとの寸法を正確に測り、一列を一度に落とし込むようにすると床材が綺麗に収まります。
- また床材の切断の際には、下図のように斜めにカットすると床材の納めがスムースになります。
- その際には、施工後の沈み防止のため下図のように、沈み防止処理を行って下さい。
- 床材の貼りじまいの切断は、実際の壁からの寸法より長くならないように注意して下さい。壁からの寸法より長い場合は目地がきつくしまり、床材の伸びによる突き上げ、波打ちの原因になります。



7．仕上げ養生
施工完了後に、表面のゴミやほこりを取り除いて下さい。特に砂や小石があると傷の原因となります。また、床材に付着した接着剤は綺麗に拭き取って下さい。硬化後では取れなくなります。清掃の後に養生シートを敷き、養生テープで全周囲を止めて下さい。その上から更にダンボールや合板を敷いて充分な養生をして下さい。又、クラフトテープ、布テープでは表面の変色や剥がれの原因となりますので市販の床用養生テープをご使用下さい。

8．施工後の注意
- 上履き専用のフローリングです。土足厳禁として下さい。長時間雨露に曝されますと、床材の表面の変色や腐れの原因となりますのでご注意下さい。養生の上といえども脚立や施工道具の取り扱いには充分注意していただき、適切な保護をして下さい。
- **車椅子やキャスター付椅子は床表面を傷つけますのでご使用は遠慮願います。**
- ピアノ等の支持部の局所荷重に対してはパッドを使用して荷重分散をして下さい。
- 床暖仕様の場合、暖房中の床材上にカーペット等の敷設物はご使用にならないで下さい。熱がこもり低温火傷を起こす可能性があります。さらに床材に悪い影響を与えます。

9．メンテナンス
- 普段のお手入れは掃除機、ほうき、乾いた雑巾でほこりや汚れを取り除いて下さい。専用の化学雑巾の場合は、商品の説明書に従ってお使い下さい。また、汚れがひどい場合は、専用洗剤を薄めた水に雑巾を浸け、固くしぼってからご使用下さい。
- 半年に1回の専用ワックスをおすすめします。市販の水性ワックスをご使用下さい。

EURO-PLANK®145

※必ず同梱の施工説明書をお読みになって施工していただくよう、お願いいたします。

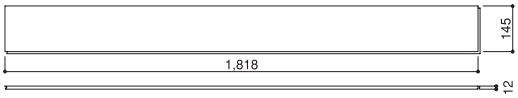
二重床仕上げ用フローリング 施工要領（床暖房なし）

1.適用範囲

本要領書は二重床下地材上に敷設施工を行なう突き板貼り複合フローリング「ユーロプランク」について適用します。

2.製品構成

・天然木突き板0.3㎜表面仕上げ　・基材5プライ合板JAS-Ⅱ類耐水合板　・F☆☆☆☆仕様



●製品名：ユーロプランク　●寸法：12㎜厚×145㎜幅×1818㎜長さ（本実加工）
●梱包形態：12枚/ケース・3.16m²入り

3.製品の確認

本品は天然銘木化粧合板ですので、1枚1枚色柄が多少異なります。各板毎に多少色合いが異なります。施工前に必ず仮並べをして、全体の色調のバランスをとり、配列調整を行って下さい。梱包を解梱後は速やかに施工をして下さい。解梱後長時間放置されますと、寸法安定性が損なわれることがあります。製品の施工現場での管理は、水濡れ・湿気等のない冷暗所にて保管して下さい。

4.製品の割付

部屋寸法を予め測って床材を小片で貼りこむことのないように割付を行なって下さい。床材の貼り方は「ズラシ貼り」を行って下さい。ズラシ幅は300㎜～400㎜すると規則正しく配列され綺麗に仕上がります。巾木は原則として後巾木として下さい。床材の壁際の納めは、壁より2～3㎜程度の隙間を設けて下さい。フローリングの伸縮を吸収することができます。納めの部分にくさびを打ち込むことにより隙間を設けて下さい。先巾木とすることは避けて下さい。先巾木とした場合、フローリングの伸縮により、フローリングの浮きや床鳴りの原因となります。

5.下地面の調整

下地（合板等）の間の段差が無く、床鳴りなどの不具合がないことを確認して下さい。万が一不具合があれば段差払い床鳴り解消の適切な処理を行って下さい。その上で仕上げ材の施工を行って下さい。

6.釘・接着剤について

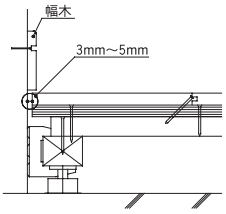
釘はフローリング用スクリュー釘（長さ38㎜以上）を使用し、釘打ちを行って下さい。必要に応じてウレタン系接着剤を用いて接着剤／釘併用の施工として下さい。

施 工 手 順

1. 墨だし
貼り始め（第1列）の基準線を決めます。この時、部屋寸法を予め測って床材を小片で貼り込むことの無いように割付を行って下さい。下地合板の継ぎ目とフローリング実部が合わないように注意して下さい。温水マットの小根太上の順次割付敷設して下さい。

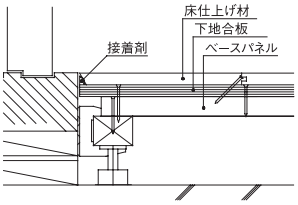
2. 貼り始めの床材の切断
ケースから使用する床材を取り出し、部屋全体の色、柄のバランスを考え、仮並べをして配列調整を行って下さい。一列目の基準線に沿って床材を切断していきます。この時床材の雌実（メンザネ）側が壁面にくるようにして下さい。

3. 貼り付け
フローリング用スクリュー釘（長さ38㎜以上）をフローリング実部に斜め打ち(約45度程度の角度)で行って下さい。長辺雄実（オンザネ）部の釘止め固定は、フローリング長辺雄実部を約300㎜ピッチで釘止めを行なって下さい。フローリング短辺方向はフローリング用スクリュー釘（長さ38㎜以上）を1本で釘止め固定を行なって下さい。釘打ち固定を行う前に、釘頭頂部の実部よりの突出あるいは雄実部下部の損傷がないか確認下さい。釘頭の突出があれば、ポンチ等で確実に処理して下さい。雄実下部の損傷を生じた場合、適切な処理を行なって下さい。フローリング実部の盛り上がりあるいはフローリングジョイント部の目地の隙間を発生します。ついで、次のフローリングを敷設します。フローリングは、ゴムハンマーかフローリングの雄実部に当て木をしてハンマーでジョイント部に隙間のでないようにフローリングを打ち込んで下さい。



4. 貼り仕舞の施工
◎壁との寸法を正確に測り取り、壁際より3㎜～5㎜の隙間を設けて壁際部の納めを行って下さい。壁とフローリングが当たると床鳴りの原因となります。壁とフローリングの間に隙間を設けますので巾木は後付けとして下さい。

◎納め部のフローリングはウレタン系接着剤の塗布及び釘打ち併用の納めとして下さい。和室等の敷居の取り合い部ではウレタン系接着剤のみの納めとなります。その際はフローリングを図のように斜めカットし敷居との取り合い部に接着剤を多めに塗布して納めて下さい。



5. 仕上げ養生
施工完了後に、表面のゴミやほこりを取り除いて下さい。特に砂や小石があると傷の原因となります。また、床材に付着した接着剤は綺麗に拭き取って下さい。硬化後では取れなくなります。清掃の後に養生シートを敷き、養生テープで全周囲を止めて下さい。その上から更にダンボールや合板を敷いて充分な養生をして下さい。又、クラフトテープ、布テープでは表面の変色や剥がれの原因となりますので市販の床用養生テープをご使用下さい。

6. 施工後の注意
・上履き専用のフローリングです。土足厳禁として下さい。長時間雨露に曝されますと、床材の表面の変色や腐れの原因となりますのでご注意下さい。養生の上といえども脚立や施工道具の取り扱いには充分注意していただき、適切な保護をして下さい。
・**車椅子やキャスター付椅子は床表面を傷つけますのでご使用は遠慮願います。**
・ピアノ等の支持部の局所荷重に対してはパッドを使用して荷重分散をして下さい。

フローリングの補修方法について

1）すり傷（塗装膜のみ傷ついている場合）・・・・・・・・ 着色（塗料）により補修を行って下さい。
2）すり傷（ツキ板まで傷ついている場合）・・・・・・・・ コーキング又はフローリング補修キットを使用して補修して下さい。
3）へこみ傷（合板のへこみ）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ フローリング補修キッドを使用して、へこみを埋めて平滑に仕上げて下さい。フローリング補修キットを使用してもへこみ傷が目立つようであれば、フローリングの貼り替えを行って下さい。

※1），2）の場合でも傷が大きく補修しても傷が目立つ場合は、貼り替えを行って下さい。

貼り替え方法

1. 傷ついた板を剥がす場合、ノミを使用し実方向を確認して下さい。まわりのフローリングの実を壊さないように十分に注意しながら行って下さい。その際ノミはフローリングの半分程度の深さまで入れて削り取ってフローリングの実方向を確認して下さい。実方向を確認後、貼り替えるフローリングジョイント部周囲より2㎝程度内側をノコ歯挿入深さを調整（9～10㎜程度）した上、フローリングを切断します。
2. 切り取ったフローリング内側を除去後、残っているフローリング実側をプライヤー等で除去します。その際フロアー釘も併せて除去して下さい。この時、周囲のフローリングを傷つけないように充分注意して作業を行って下さい。又、ノミによっても周囲のフローリングを傷つけないように充分注意して作業を行って下さい。
3. フローリングを剥がし終えたら下地側の状況を確認して下さい。接着剤併用の場合、接着剤が極端に残っているようであれば金ベラやスクレーパー等で接着剤を除去して下さい。又、実部やその周辺に接着剤が付着しているようであれば同様に接着剤を除去して下さい。
4. 貼り替え用のフローリングは、雌実下側を短辺、長辺とも電動ノコあるいはカッターナイフ等で切り取って下さい。
5. 下地側に残っているフローリングの雄実下側に接着剤十分入れて、補修用のフローリングの切り取った雌実を雄実下側に挿入して下さい。
6. 木工用ボンドを納める箇所のまわりのフローリング雄実上側に塗布して下さい。
7. 貼り替え用フローリングを雄実側から入れて納め下さい。
8. 貼り替え用フローリングの浮きが出来ないよう仮釘等によりフローリングの仮固定を行って下さい。
9. 貼り替えた部分に段差が出来ていないかよく確認し、重石を乗せて固定し一日程度養生して下さい。重石・仮釘等は1日養生後、除去して下さい。

EURO-PLANK®145 ※必ず同梱の施工説明書をお読みになって施工していただくよう、お願いいたします。

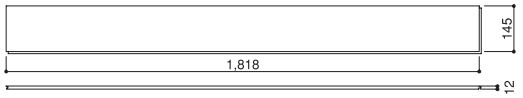
二重床仕上げ用フローリング 施工要領（床暖房用）

1.適用範囲

本要領書は根太貼りあるいは二重床下地材上に敷設施工を行なう突き板貼り複合フローリング『ユーロプランク』について適用します。

2.製品構成

・天然木突き板0.3㎜表面仕上げ・基材5プライ合板JAS-Ⅱ類耐水合板・F☆☆☆☆仕様



●製品名：ユーロプランク　●寸法：12㎜厚×145㎜幅×1818㎜長さ（本実加工）
●梱包形態：12枚/ケース・3.16m²入り

3.製品の確認

本品は天然銘木化粧合板ですので、1枚1枚色柄が多少異なります。各板毎に多少色合いが異なります。施工前に必ず仮並べをして、全体の色調のバランスをとり、配列調整を行って下さい。梱包を解梱後は速やかに施工をして下さい。解梱後長時間放置されますと、寸法安定性が損なわれることがあります。製品の施工現場での管理は、水濡れ・湿気等のない冷暗所にて保管して下さい。

4.製品の割付

部屋寸法を予め測って床材を小片で貼りこむことのないように割付を行なって下さい。床材の貼り方は「ズラシ貼り」を行って下さい。巾木は原則として後巾木として下さい。床材の壁際の納めは、壁より3㎜～5㎜程度の隙間を設けて下さい。フローリングの伸縮を吸収することができます。先巾木とすることは避けて下さい。先巾木とした場合、フローリングの伸縮により、フローリングの浮きや床鳴りの原因となります。

5.下地面の調節

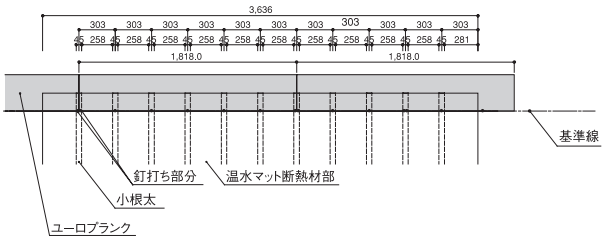
小根太付き温水マットと周囲のダミー合板の段差、小根太付き温水マット間、及びダミー合板同志の段差が無く、床鳴りなどの不具合がないことを確認して下さい。万が一不具合があれば段差払い床鳴り解消の適切な処理を行って下さい。その上で仕上げ材の施工を行って下さい。
小根太付き温水マットの水圧試験に合格していることを確認して施工を開始して下さい。

6.釘・接着剤について

釘はフローリング用スクリュー釘（長さ38㎜以上）を使用し、小根太付き温水マットの小根太上にのみ釘打ちを行って下さい。あわせて小根太上にはウレタン系接着剤『**コニシ KU-928C**』を用いて接着剤／釘併用の施工として下さい。ウレタン系接着剤の塗布量は接着剤メーカー仕様をご確認下さい。

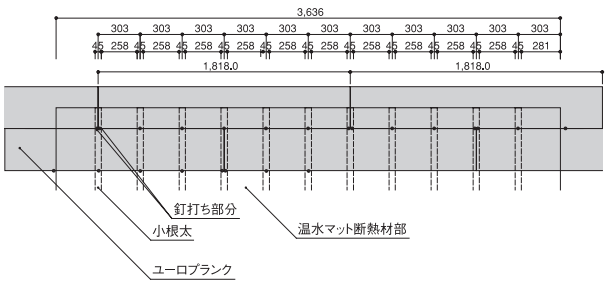
施 工 手 順

1.墨だし
温水マットとフローリング実部が合わないように注意して下さい。貼り始め（第1列）の基準線は床暖房マットの小根太上に一列目のフローリング短辺を配列してを決めます。フローリングは温水マットとダミー合板等をまたいだ状態でフローリングの貼り方向は温水マットの小根太に対して直交として下さい。貼り始め（第1列）の基準線を決めます。この時、部屋寸法を予め測って床材を小片で貼り込むことの無いように割付を行って下さい。



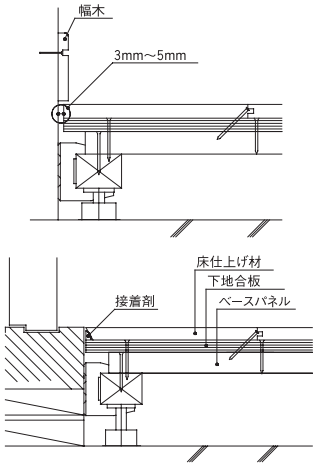
2.貼り始めの床材の切断
ケースから使用する床材を取り出し、部屋全体の色、柄のバランスを考え、仮並べをして配列調整を行って下さい。一列目の基準線に沿って床材を切断していきます。この時床材の雌実側が壁面にくるようにして下さい。

3.貼り付け
小根太上にウレタン系接着剤をコーキングガン等で塗布し、フローリング用スクリュー釘（長さ38㎜以上）で小根太上にフローリング長辺雄実部の釘止め固定を行って下さい。フローリング長辺雄実部を約300㎜ピッチで釘止めを行なって下さい。さらにフローリング短辺雄実上には木工用ボンドを塗布し、次のフローリング雌実部を合わせて下さい。釘打ち固定を行う前に、ゴムハンマーかフロアーの雌実部に当て木をしてハンマーでジョイント部に隙間のでないようにフローリングを打ち込んで下さい。
温水マット小根太上でのみフローリングの釘打ち施工を行なって下さい。
2列目以降も小根太を起点として施工を行なって下さい。温水マットの小根太部分以外の釘打ちは厳禁です。温水マットの破損の原因となります。



フローリング用スクリュー釘（長さ38㎜以上）をフローリング実部に斜め打ち(約45度程度の角度)で行って下さい。長辺雄実部の釘止め固定は、フローリング長辺雄実部を約300㎜ピッチで釘止めを行なって下さい。フローリング短辺方向はフローリング用スクリュ（長さ38㎜以上）を1本で釘止め固定を行なって下さい。釘打ち固定を行う前に、釘頭頂部の実部よりの突出あるいは雄実部下部の損傷がないか確認下さい。釘頭頂部の突出があれば、ポンチ等で確実に処理して下さい。雄実下部の損傷を生じた場合、適切な処理を行なって下さい。フローリング実部の盛り上がりあるいはフローリングジョイント部の目地の隙間を発生します。

4.貼り仕舞の施工
◎壁との寸法を正確に測り取り、壁際より3㎜～5㎜の隙間を設けて壁際部の納めを行って下さい。壁とフローリングが当たると床鳴りの原因となります。壁とフローリングの間に隙間を設けますので巾木は後付けとして下さい。
◎納め部のフローリングはウレタン系接着剤の塗布及び釘打ち併用の納めとして下さい。和室等の敷居の取り合い部ではウレタン系接着剤のみの納めとなります。その際はフローリングを図のように斜めカットし敷居との取り合い部に接着剤を多めに塗布して納めて下さい。



5.仕上げ
養生施工完了後に、表面のゴミやほこりを取り除いて下さい。特に砂や小石があると傷の原因となります。また、床材に付着した接着剤は綺麗に拭き取って下さい。硬化後では取れなくなります。清掃の後に養生シートを敷き、養生テープで全周囲を止めて下さい。その上から更にダンボールや合板を敷いて充分な養生をして下さい。又、クラフトテープ、布テープでは表面の変色や剥がれの原因となりますので市販の床用養生テープをご使用下さい。

6.施工後の注意
・上履き専用のフローリングです、土足厳禁として下さい。長時間雨露に曝されますと、床材の表面の変色や腐れの原因となりますのでご注意下さい。養生の上といえども脚立や施工道具の取り扱いには充分注意していただき、適切な保護をして下さい。
・車椅子やキャスター付椅子は床表面を傷つけますのでご使用は遠慮願います。
・ピアノ等の支持部の局所荷重に対してはパッドを使用して荷重分散をして下さい。
・床暖房中の床材上にカーペット等の敷設物はご使用にならないで下さい。熱がこもり低温火傷を起こす可能性があります。さらに床材に悪い影響を与えます。

caccin coccin

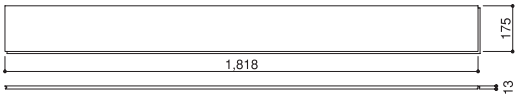
二重床仕上げ用フローリング 施工要領（床暖房なし）

1.適用範囲

本要領書は二重床下地材上に敷設施工を行なう突き板貼り複合フローリング「カチンコチン」について適用します。

2.製品構成

・天然木突き板0.5+0.5＝1.0㎜表面仕上げ ・基材クロス合板 ・F☆☆☆☆仕様



●製品名：カチンコチン ●寸法：13㎜厚×175㎜幅×1818㎜長さ（本実加工）
●梱包形態：10枚/ケース・3.18m²入り

3.製品の確認

品は天然銘木化粧合板ですので、1枚1枚色柄が多少異なります。各板毎に多少色合いが異なります。施工前に必ず仮並べをして、全体の色調のバランスをとり、配列調整を行って下さい。梱包を解梱後は速やかに施工をして下さい。解梱後長時間放置されますと、寸法安定性が損なわれることがあります。製品の施工現場での管理は、水濡れ・湿気等のない冷暗所にて保管して下さい。

4.製品の割付

部屋寸法を予め測って床材を小片で貼りこむことのないように割付を行なって下さい。床材の貼り方は「ズラシ貼り」を行って下さい。ズラシ幅は300㎜～400㎜すると規則正しく配列され綺麗に仕上がります。巾木は原則として後巾木として下さい。床材の壁際の納めは、壁より2～3㎜程度の隙間を設けて下さい。フローリングの伸縮を吸収することができます。納めの部分にくさびを打ち込むことにより隙間を設けて下さい。先巾木とすることは避けて下さい。先巾木とした場合、フローリングの伸縮により、フローリングの浮きや床鳴りの原因となります。

5.下地面の調整

下地（合板等）の間の段差が無く、床鳴りなどの不具合がないことを確認して下さい。万が一不具合があれば段差払い床鳴り解消の適切な処理を行って下さい。その上で仕上げ材の施工を行って下さい。
下地には12㎜以上の耐水合板を捨て貼りして下さい。本製品は釘打ち・ボンド併用施工です。

6.釘・接着剤について

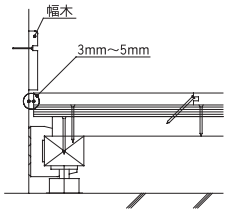
釘はフローリング用スクリュー釘（長さ38㎜以上）を使用し、釘打ちを行って下さい。また、ウレタン系接着剤を用いて接着剤／釘併用の施工として下さい。

施 工 手 順

1. 墨だし
貼り始め（第1列）の基準線を決めます。この時、部屋寸法を予め測って床材を小片で貼り込むことの無いように割付を行って下さい。下地合板の継ぎ目とフローリング実部が合わないように注意して下さい。

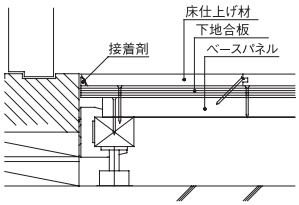
2. 貼り始めの床材の切断
ケースから使用する床材を取り出し、部屋全体の色、柄のバランスを考え、仮並べをして配列調整を行って下さい。一列目の基準線に沿って床材を切断していきます。この時床材の雌実（メンザネ）側が壁面にくるようにして下さい。

3. 貼り付け
フローリング施工用接着剤をクシ目ゴテを用いて均等に下地に塗り広げて下さい。フローリング用スクリュー釘（長さ38㎜以上）をフローリング実部に斜め打ち(約45度程度の角度)で行って下さい。長辺雄実（オンザネ）部の釘止め固定は、フローリング長辺雄実部を約300㎜ピッチで釘止めを行なって下さい。フローリング短辺方向はフローリング用スクリュー釘（長さ38㎜以上）を1本で釘止め固定を行なって下さい。釘打ち固定を行う前に、釘頭頂部の実部よりの突出あるいは雄実部下部の損傷がないか確認下さい。釘頭の突出があれば、ポンチ等で確実に処理して下さい。雄実下部の損傷を生じた場合、適切な処理を行なって下さい。フローリング実部の盛り上がりあるいはフローリングジョイント部の目地の隙間を発生します。ついで、次のフローリングを敷設します。フローリングは、ゴムハンマーかフローリングの雄実部に当て木をしてハンマーでジョイント部に隙間のでないようにフローリングを打ち込んで下さい。



4. 貼り仕舞の施工
◎壁との寸法を正確に測り取り、壁際より3㎜～5㎜の隙間を設けて壁際部の納めを行って下さい。壁とフローリングが当たると床鳴りの原因となります。壁とフローリングの間に隙間を設けますので巾木は後付けとして下さい。

◎納め部のフローリングはウレタン系接着剤の塗布及び釘打ち併用の納めとして下さい。和室等の敷居の取り合い部ではウレタン系接着剤のみの納めとなります。その際はフローリングを図のように斜めカットし敷居との取り合い部に接着剤を多めに塗布して納めて下さい。



5. 仕上げ養生
施工完了後に、表面のゴミやほこりを取り除いて下さい。特に砂や小石があると傷の原因となります。また、床材に付着した接着剤は綺麗に拭き取って下さい。硬化後では取れなくなります。清掃の後に養生シートを敷き、養生テープで全周囲を止めて下さい。その上から更にダンボールや合板を敷いて充分な養生をして下さい。又、クラフトテープ、布テープでは表面の変色や剥がれの原因となりますので市販の床用養生テープをご使用下さい。

6. 施行後の注意
・長時間雨露に曝されますと、床材の表面の変色や腐れの原因となりますのでご注意下さい。
・ピアノ等の支持部の局所荷重に対してはパッドなどを使用して荷重分散をして下さい。
・事務所等でのキャスター付椅子の使用は表面に傷が入る恐れが有ります。カーペットなどの使用をお勧めします。
・外部からの水や泥の浸入が多い出入り口付近などでは、水きりマット等を設置し、床を濡らさない様にして下さい。
・什器・設備などを移動する場合は、床面をこすらないよう、持ち上げて行って下さい。

フローリングのメンテナンスについて

・普段のお手入れは掃除機、ほうき、乾いた雑巾でホコリや汚れを取り除いて下さい。
・水に塗れた場合はすみやかに拭き取り、乾いた布で充分に水気を取り除いて下さい。
・歩行量の多い店舗などでは、2～3週間に1回のペースでワックスがけを行ってください。
・ポリッシャーなどでの洗浄液散布型の洗浄はご遠慮ください。目地部分より水分が浸透し、反りや単板のふくれが発生する恐れがあります。

ワックス資料

日常のお手入れには下記ワックスをご使用ください。

メーカー名	ジョンソンディバーシー（株）	リンレイ（株）	コニシ（株）
店舗用	jon-woodフローリングワックス	ハイテクフローリングコートツヤ消し40	ワックス職人
住宅用	ニュートラコート（住宅用）	ハイテクフローリングコートツヤ消し40	ワックス職人

ご注意

●ワックスは絶対に床の上に流さないでください。
●ワックスはきれいな布に含ませ、しずくが落ちない程度に絞って床面に薄くムラなく塗りひろげてください。
●容器の下にはビニール等を敷いて下さい。
●床面にワックスを流したり、しずくが落ちる様な布で塗ると部分的にフロア表面美観を損ねることがあります。
●ワックスをかけるときは、床面が充分に乾燥している（水気がない）事を確認して下さい。
●ワックスがけの前後で化学雑巾は使用しないで下さい。床の表面が、白っぽくなる原因となります。
●室内の温度が5℃以下のときや、雨の日で湿度が極端に高いときは、ワックスは使用しないで下さい。床の表面が、白っぽくなる原因となります。
●詳細はそれぞれの商品に付属されている取扱説明書、またはメーカーにお問い合わせ下さい。